



2019.12.11発表資料 無断引用・転載禁止

SBSTTA23報告NGOの活動と問題意識

国連生物多様性の10年市民ネットワーク

代表 坂田昌子

SBSTTA23におけるNGOの取組み

- 中国とのミーティング
- 事務局とのミーティング
- 共同議長とのミーティング
- ドイツとのミーティング
- EUとのミーティング
- 『ECO』作成、配布
- ステートメント作成と発表（オープニングやクロージングだけではなく、各Itemに対しても）
- バナーアクション
- サイドイベント

CBDアライアンスの問題意識

① The Right-based approach

自然に関する主要な権利を推進し擁護する。
主に人権を中心に議論されている。

国や地域と協力し自然を守る活動に参加する権利、企業・軍隊・国家の暴力や人権侵害に直面している人々、農民・漁民・森林居住者・牧畜民などのうち生物多様性の持続可能な利用に基づいた暮らしを追求する人々の経済的、社会的権利

② IPBESレポートを真摯に受け止めた意欲的な議論。特に直接的要因、間接的要因への実践的な対処

③ 技術評価の軽視に対する懸念

技術移転は重要だが、不十分。技術を社会的、生態学的に評価せず単に移転するだけでは問題。

中国政府との対話①COP15 への意欲

COP15の成功に向けてどのような意欲をもって取り組むのか？

- ・科学的証明は重要で、IPBESのグローバルアセスメント、ローカルアセスメント、土地劣化についてのアセスメントに対する資金提供は、生物多様性損失に対処するための課題だと考えている。

- ・post2020では生物多様性損失のドライバーに対処すべきだが、今はまだ初期段階なので、OEWGの提案、テキストがどうなるのかわかるまでもっと時間が必要。だが、すべてのドライバーにはなんらかの対処をすべき。Post2020フレームワークの10年以内に何ができるか実践可能な実装が必要。

長期的には強い希望と意欲を示すが、時間の制約という現実とのバランス示す必要がある。

- ・中国は強い意欲を持っている。エコロジーは中国の憲法にも示されてる。憲法のある「生態文明」による多くの実施を目指す。

中国との対話②主流化

ほとんどの国でCBDを担当しているのは環境省だが、生物多様性の損失の原因は他の省庁にあり、パワーの不均衡があるというむずかしさは主流化のトピックで取り上げられている。この問題に対し、どうすれば生物多様性を喪失させるドライバーに対処できると思うか？

・中国はこの点については多くのことをやってきた。副首相が議長をつとめる調整メカニズムを作り、32人の大臣がメンバーとして参加している。内部の協力的なリーダーシップによるこの方法は主流化を高いレベルで達成するためのモデルになる可能性がある。

中国との対話③権利ベースアプローチ

先住民や地域社会の台頭に伴い、生物多様性を守る人々を保護する必要がある、権利についての要素と手段が重要になっている（環境法へのアクセス、オーフス条約等）。中国では市民社会がCBDで行動できるようにしたいがどう考えているか？

- ・すべての利害関係者が交流するためのプラットフォームを作る。地域のNGOと多くのワークショップを行っている。可能なかぎりの利害関係者をCBDのプロセスに参加させる。
- ・コミュニケーションキャンペーンとして世界中から昆明に向かう若者と共に「昆明への希望の列車」に取り組む。

CBDアライアンスの今後の動き

- ・2月18～20日、チェンマイで、Right-based アプローチのワークショップ開催

- ・CBDアライアンスで書面を作成、事務局や各政府に提出する予定。

※共同議長から書面による提出は常に受け付けるとのこと。(締切をすぎてもOK)

- ・各地域での能力向上への取組み。

- ・1月13日にゼロドラフトが公開されてからさらに議論、交渉、提案などを積極的に行う予定。